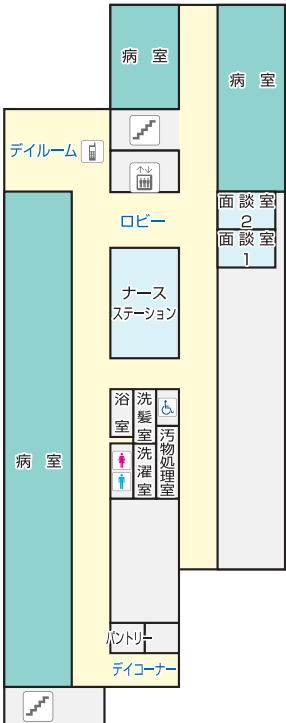


■一般病棟（4階～9階）

4階～9階の病棟フロアは、内視鏡外科や消化器、循環器、肺、呼吸器、糖尿病、アイ（眼）センターなど、診療科の枠を超えた最高の医療と、快適な療養環境を提供することができるように設計された一般病棟となっています。

4～9F



ご案内 移動経路、各種設備のご使用方法など、ご不明な点は職員までお尋ねください。

ご注意 館内の各種案内表示内容についてお守りください。特に「Staff Only」と記されたドアは職員専用の通用口です。関係者以外の方は安全のため、立ち入らないでください。

ナースステーション

ぬくもりを感じる木目を基調とし、通路は広く、開放的な空間となるよう配慮しています。ナースステーションは、患者様とのコミュニケーションを円滑にするため、また病棟内を見渡せるように間仕切りを設置していません。



病室

快適にご入院生活をお送りいただけるよう、明るく開放感のある病室を意識しました。患者様の移動の負担を少しでも軽減するため、各病室内にはお手洗い、洗面台を設置しています。



ダイニング

ご家族との談笑の場として、また、ご入院患者様間のさまざまなコミュニケーションの場としてダイニングをご活用ください。



■特別個室病棟（10階）「7A階」



7A階 ナースステーション



7A階 特別個室



7A階 ロビー



7A階 一般個室



落ち着いた色調で統一した、ラグジュアリー感あふれる「7A階」は、最善の療養環境を患者様に提供できるように、上質かつ開放感あふれる空間づくりと、最新の付帯設備を完備しています。

こうした空間や設備は、ご入院生活で重要とされる「心の癒し、ゆとり」に大きく寄与するものであると考えています。

■最新設備

「新総合棟（病院7号館）」には、さまざまな最新設備が導入されています。本院にご来院の皆様が快適にお過ごしいただけるよう、バリアフリーはもちろん、非接触式開閉ドアなどを採用しています。

お手洗い

お手洗いの照明は、人の動きをセンサーが感知して自動的に点灯、消灯します。



多機能トイレ

車椅子などをご利用の方が快適にお手洗いをご利用いただけるよう、多機能トイレには、手をかざすだけでドアの開閉や水洗ができる非接触センサーを採用しています。



エレベーター

エレベーターには、腰掛けや手摺りを設置し、お身体の不自由な方の負担を少しでも軽減できるように配慮しています。行き先階の操作ボタンも大きなものを採用しています。



携帯電話ブース（病棟4階～9階）

本院では、全館で携帯電話の使用を禁止させていただいておりましたが、ご来院の方々のご要望もあり、携帯電話ブース内（病棟4階～9階）に限り、携帯電話をご使用いただけるようにしました。このブース以外では、引き続き携帯電話のご使用を禁止しておりますが、現在、この場所以外でも、ご使用いただける場所を選定中ですので、その間にご協力をお願いします。



一般・消化器外科は、腹部内臓疾患の外科治療を専門とする消化器外科と乳腺・甲状腺や血管・外傷の外科治療を専門とする一般外科から構成されており、外来部門においては消化器外科と一般・乳腺・内分泌外科に大きく分けられています。さらに、消化器外科は、食道・胃・大腸肛門・肝臓・胆嚢（胆道）・膵臓の臓器別に分かれ、チーフである助教授・講師・助手が主治医となつてスタッフの担当医とともにグループ制で診療を行うことで、より優れた診断と治療が患者様本位に実践できる体制になっています。すなわち、外来初診から術前検査・入院・手術・術後管理、さらに退院後経過観察までを臓器別グループにて一貫して行っています。



本学消化器外科の診療のなかでも特筆すべき取り組みは、なんと言っても内視鏡外科手術（腹腔鏡下手術）です。胆嚢だけでなく、大腸がんや胃がんなどに対する腹腔鏡下手術に国内でもいち早く着目して実践してきました。お腹に5mmから1cmの小さな穴のような傷を4～5カ所ほどつけて切除を行う腹腔鏡下手術では傷が小さくて分散しているため、従来のお腹を大きく切つて切除する開腹手術に比べて、術後の痛みや癒着が少なく、手術からの回復が早くて腸閉塞などの後遺症が少ない利点があります。

シリーズ
診療科
ご紹介
一般・消化器外科
谷川 允彦



しかし、腹腔鏡下手術を安全で効果的に行うためには豊富な経験と的確な技術が必要です。当科では、がん手術の原則遵守を基本に、卓越した技術を用い、放射線科と独自に考案した統合的3D・CT画像を術前シミュレーションと術中ナビゲーションに活用して腹腔鏡下手術をより安全で的確な低侵襲オーダーメイド手術に進化させ、段階的に適応を拡大してきました。これまでに、谷川教授を中心に200件を超える腹腔鏡下胃がん手術、奥田助教授を中心に700件を超える腹腔鏡下大腸がん手術を行っています。胃班では低侵襲手術である腹腔鏡下胃がん手術や術後のQOLを高める縮小手術のほか、高度進行胃がんには根治性を高めるべく大動脈周囲リンパ節郭清や左上腹部内臓全摘術などの拡大手術も行っています。大腸肛門班は、大腸がんのほかクロン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患に対する腹腔鏡下手術のスペシャリストでもあります。が、肛門に非常に近くて従来から永久人工肛門となつていた直腸がんにもできるだけ自然肛門を温存する究極の肛門温存手術を積極的に提供しています。とくに、胃がんを始め、食道がんや大腸

がんに対しては、どの抗がん剤が効果があるかを判定する抗がん剤感受性試験の実施認定施設にも選ばれています。また、肝臓班では肝臓がんなどに対して年間50件以上の肝切除術を行っています。が、これに加えて肝臓がんや高度肝硬変に対する生体肝移植術もこれまで20件以上に行つて良好な成績を得ています。乳癌班では年間90件の乳がん手術を行っています。が、乳房温存術が過半数となつており、これに加えてセンチネルリンパ節生検を行つて腋窩リンパ節郭清を省略して手術後の腕のしびれなどの後遺症を予防しています。その他、膵臓や血管の手術も積極的にを行っています。

当科では臓器別診療体制によつて、患者様や紹介医の先生への対応も正確かつ迅速になり、術前検査も漏れなく無駄なく、豊富な経験と卓越した手術技術に加えて、先回りした術後管理により合併症の発生も少なくなっています。また、システム化された外来での抗がん剤加療や経過観察により再発の減少とより正確な治療効果の判定が行えます。さらに、消化器内科、放射線科、泌尿器科、婦人科などの関連各科やご紹介医との連携もスムーズに行つてお一人ひとりの患者様にベストのチーム医療を提供すべく努力しておりますので、どうぞ安心してお越しください。